

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-53C	12-105	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol and tobacco lower the age of presentation in sporadic pancreatic cancer in a dose-dependent manner: a multicenter study. アルコールとタバコは孤発性膵がんの発現年齢を量依存的に低下させる: 多施設共同研究		
執筆者		
Anderson MA, Zolotarevsky E, Cooper KL, Sherman S, Shats O, Whitcomb DC, Lynch HT, et al.		
掲載誌		
Am J Gastroenterol. 2012 Nov;107(11):1730-9.		
キーワード		
膵臓腺がん、アルコール、タバコ		
要旨		
目的: タバコおよびアルコールの量や種類が、膵臓腺がん発症に関連するかについて検討した。		
方法: Pancreatic Cancer Collaborative Registry より前向きデータを用いて、膵臓腺がん発症年齢とさまざまな変数 (性、人種、出生国、教育歴、膵臓腺がんの家族歴、糖尿病歴、タバコ、アルコールの使用) との関連を検討した。統計解析には、ロジスティック回帰分析、cox 比例ハザードモデル、イベント 発生率解析を用いた。		
結果: 膵臓腺がんの診断年齢 (中央値) は 66.3 歳 (95%信頼区間 (CI) ;64.5-68.0) で、男性が女性に比べて、喫煙者割合 (77% vs. 69%, P=0.0002)、大量飲酒者割合、ビール摂取者割合 (19% vs. 6%, 34% vs. 19%, P<0.0001) が高かった。単変量解析では、膵臓腺がん発症年齢に、性、アルコールとタバコの使用 (量と状態、種類)、膵臓腺がんの家族歴、BMI が関連しており、アルコールとタバコはいずれも用量依存性があった。多変量解析では、飲酒状況と量が膵臓腺がんの早期発症のリスクを上昇させ、多量飲酒者では最も大きなリスクを示した (ハザード比 (HR) ; 1.62, 95% CI 1.04-2.54)。喫煙状況は膵臓腺がんの早期発症のリスクを上昇させ (HR2.69, 95% CI 1.97-3.68)、用量も独立して関連していた (P=0.019)。アルコールとタバコの悪影響は、10年間の禁酒・禁煙の後に取り除かれるようである。		
結論: アルコールとタバコの使用は、用量依存的に膵臓腺がん発症低年齢化に関連していた。ビール飲酒者は非飲酒者に比べて低年齢で膵臓癌を発症するが、アルコール摂取量を調整後は、アルコールの種類は有意な関連を示さなかった。		